

東久留米市立第三小学校 第6学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>○既習の漢字や言語の理解はできている児童が多い。                      ▲漢字の定着に課題が見られる児童は1割である。                      ○トリオ学習やグループ学習などの自分の意見や考えを発表する場面では、考えをまとめて発表できる児童が多くみられる。                      ▲文意に即して読み取ったり、自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。                      ▲構成を考えて文章を書くことに課題が見られる。</p>	<p>①漢字のミニテストを練習→テスト→確認の流れで実施し、定着を図る。8割の児童が8割以上正答できるようにしたい。                      ②キーワードや大事な文に着目させ、丁寧に読み取らせるための問いを用意する。考えるポイントや書く時のポイントを示す。                      ③文章を書かせる前に基本的な構成や文型などを示し、書き方の手掛かりにさせる。構成に沿って文を組み立てられるようにポイントを押さえて作文メモなどを書かせ、文を書くときの手掛かりにさせる。</p>
算数	<p>○ペア・グループ活動では、友達の様々な考えを知ることを肯定的にとらえて学習に取り組める児童が多い。                      ▲筋道立てて考えること及び考えたことを相手に伝えるように説明することに課題が見られる。                      ▲公式を覚えることはできるが、なぜそのようなきまりになるのかまで理解することに課題が見られた。</p>	<p>①既習を想起させ、課題解決への見通しをもたせるようにする。                      ②図や数直線などを用いて、理由を明確にしながら学習できるようにする。                      ※8割以上の児童が自分の考えをノートに書いたり、相手に伝えるように考えを説明したりできるようにする。(ノート・発言)</p>
理科	<p>○自分なりに問題に対する予想をノートに書ける児童が多い。                      ▲考察について実験結果を根拠にして書くことに課題が見られる。                      ▲例えば、激しい運動をすると呼吸の回数や拍動数が増える理由について学習内容から多面的に考えたことを根拠や理由を明確にして文章に記述することに課題が見られる。</p>	<p>①考察は、問題を確認し、何を調べるための実験かを思い出させることで、実験結果を根拠にして考察できるようにする。                      ②既習内容を活かして多面的に考える機会を授業内で増やし、文章で記述する力をつけさせていく。</p>
社会	<p>○資料から気付いたことや考えたことについて、自分なりの表現方法で発表したり書き表したりすることができる児童が多い。                      ▲①例えば国会や内閣、裁判所と国民のかかわりについてそれぞれを自分事として考えるなどの、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力に課題が見られる。                      ▲②例えば投票率の低下がもたらす社会的な影響について考えたりするなどの、自らの社会への関わり方について選択・判断したことを文章で記述する、根拠や理由を明確にして議論することに課題が見られる。</p>	<p>①例えば国会との関わりを示す選挙制度や、内閣との関わりを示す世論の働きなど、自分と社会的事象とのかかわりを具体的に表す内容について詳しく取り上げて調べたことや考えたことを交流させる学習を取り入れるなど、学習内容の定着を高める学習内容の改善を行う。                      ②例えば投票率の低下に関わる現在の選挙制度のメリット・デメリットについて、立場を分けた討論形式の学習を取り入れることで根拠の重要性に児童が気付けるようにするなど、社会的事実や社会に与える影響を論拠にして自分の立場や考えを明らかにする学習方法を取り入れる。</p>